

歴史の見える丘

国道 487 号線のすぐ東側、呉の宮原地区のはずれにあるこの丘は、呉を見渡し、過去を振り返るための記念施設、展望台として整備された。丘の上からは、戦艦「大和」が建造された造船所や旧帝国海軍地方本部、海軍工廠跡地などを見渡すことができる。この丘の上に立つと、小さな漁師町から海軍の港町へと発展し、造船の拠点となった呉の様子が容易に想像することができる。このことは、「歴史の見える丘」という和名にも表れている。

呉湾を囲む沿岸部は古代から呉と呼ばれていたが、江戸時代には 4 つの村に分かれていた。明治時代になったのち、政府は 1886 年に呉を軍港に定めた。海軍は 4 つの村の内、宮原村に属する海岸部分をすべて買収して鎮守府の施設を建設した。宮原村の人口の大部分は海軍施設のために移転された。海軍は呉の残りの村の一部も買収した。そのため、呉の海岸部分のほとんどが海軍の所有地となり、それまで農業や漁業で生計を立てていた村人たちは、代わりに帝国海軍の労働者となった。海軍基地が必要とする多くの新しい建物のためのスペースを確保するために、湾の一部を埋め立て、近代的な碁盤目状の街路計画に沿って新しい都市が建設されました。1902 年には呉市が正式に発足し、海軍基地の拡張に伴い、呉市は急速に発展していった。

この丘からは、旧帝国海軍管区司令部（現海上自衛隊呉地方司令総監部）をはじめ、多くの歴史的な海軍建築物を眺めることができる。また、かつて海軍工廠があった呉湾を一望することがで

きる。この場所は、現在では世界最大級のオイルタンカーを生産する近代的な造船所となっている。

史上最も重武装な戦艦として知られる戦艦大和は、1937 年から 1941 年にかけて呉で建造された。建造の秘密を守るために、造船所内には現在も残る巨大な屋根が被せられていた。屋根は一部保存されていたが、その後、現在も使用されている近隣の造船所に移設されている。

海軍工廠設置の一環として、高台にレンガ造りの高い塀を建て、工廠の敷地を閉鎖した。1969 年には、壁の近くの草地の空き地に戦艦大和の建造記念碑が建立され、1978 年には、呉市を讃える歌を刻んだ石碑が追加された。この句は、1895 年に俳人の正岡子規（1867～1902）が、戦艦松島で旅立つ友人に別れを告げに呉市を訪れた際に詠んだものである。大和の碑は、艦橋を模した塔と主砲の砲弾で構成されている。1982 年に城壁が取り壊された後、その場所に海軍工廠の碑が建立され、丘の正式名称が与えられた。1993 年には、戦艦大和を建造した旧ドック（湾を埋め立てた際に撤去された）の記念碑が丘の上に追加された。ドックの石板を階段状に並べて、下の造船所へと続くようになっている。